



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/4 (木)	+ 2,300	▲ 10,800	▲ 8,500	国債発行 (2年)	国債補完供給 + 41,800		米: ADP雇用統計 (12月) 新規失業保険申請件数 (12月30日終了週)
1/5 (金)	+ 3,000	+ 5,000	+ 8,000				米: 雇用統計 (12月) 製造業受注 (11月) 欧: ユーロ圏CPI・PPI (12月)
1/8 (月)	成人の日						
1/9 (火)	+ 3,000	▲ 66,000	▲ 63,000	国庫短期証券発行償還 (3M) 法人税・消費税・保険揚げ			米: 貿易収支 (11月)
1/10 (水)	+ 3,000	+ 1,000	+ 4,000	国庫短期証券発行償還 (6M)	共通担保 ▲ 12,700		
1/11 (木)	+ 2,000	▲ 26,000	▲ 24,000	国債発行 (10年)			日: 景気一致指数 (11月) 景気先行CI指数 (11月) 米: CPI (12月)
1/12 (金)	+ 2,000	▲ 32,000	▲ 30,000	源泉税揚げ			日: 国際収支・経常収支 (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,600億円増加の545兆3,200億円から始まった。その後は、財政等要因や国債買入れオペ等があったものの小幅な増減に留まり、543兆6,800億円で越年した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.011%から始まった。その後、28日までビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は▲0.016%~▲0.011%で推移した。四半期末となる29日には一部金融機関が調達を見送ったことから、同加重平均は▲0.039%(速報)となった。ターム物は1~2W物を中心に▲0.02%台~▲0.01%台で取引された。

来週以降の主な予定は、国内では1月11日に景気先行CI指数の公表、海外では1月5日に米雇用統計(12月)・ユーロ圏CPI(12月)、11日に米CPI(12月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.11%近辺から始まり、週央まで同水準で推移した。年末初物となる28日の取引は▲0.20%から始まり、後場に▲0.09%台まで上昇した。翌1月4日受渡しの取引は▲0.10%台が出合いの中心となった。SC取引は2年438~455回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約3兆2,000億円で、週間償還額(約4兆7,500億円)を下回った。発行市場は、期明けスタートの前倒しでの入札も見られ、鉄鋼や機械、石油製品等の複数業態にて大型案件が実施されたものの、期末の有利子負債圧縮の動きから償還超となった。発行残高は前週末の28兆6,188億円から28日時点で27兆2,939億円と減少した。発行レートは概ね0%近辺から一部の銘柄においてはベース台での出合いも見られた。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.005%(前回0.001%)、平均落札レート0.023%(前回0.005%)と按分・平均落札レートが共に前回比で上昇した。

1月4日から1月12日までの償還額は、約1兆700億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開により、活況なマーケットになると思われる。発行レートは、金融政策変更への警戒感等から、レート水準が定まりにくい展開になると思われる。11日に、CP等買入れオペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

今週は国庫短期証券の入札は行われなかった。来週以降は1月5日・12日に3M、9日に6Mの入札が予定されている。